

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600147		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	たのしい家南千里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	吹田市高野台1-6-2-101 千里高野台ハイツ1F		
自己評価作成日	平成23年4月26日	評価結果市町村受理日	平成23年7月20日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活していただくことを目指しています。調理・洗濯・掃除などの家事をする家事リハビリや、利用者様一人一人の状態に合わせた生活リハビリを通し、ご本人様がそれぞれ生活の目的・目標を持っていただけるようなグループホームにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは閑静な住宅街の一画にあり、緑の多い自然環境の中にあります。近隣には公園も多く、利用者の散歩コースになっています。医療機関と良好な関係にあり、24時間体制でいつでも医療を受けることが出来る環境にあります。また、看取り介護にも優れており、すでに数人の看取りの経験を持っています。利用者の出来る事・出来ないことを把握し、出来る事についてはなるべく行なってもらうように働きかけています。また、このことが利用者さんの健康状態の維持にも役立っています。反対に、出来ないことについては支援を惜しむことなく、援助の手を差し伸べる体制があります。職員は、認知症があるからと言う考えではなく、利用者お一人お一人の尊厳を大切に支援を行っています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に法人・事業所理念を掲示し、常に職員が再確認しながら理念を基に従事している。	管理者と職員は月に1回、全体ミーティングの中で、理念の共有を行なっている。福祉原理・利用者本意・市場原理をモットーに、全員で理念の大切さを確認している。	地域密着型サービスの意義や役割を常に再認識し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける援助を継続することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に地域の方と顔見知りになったり、地域の催し物に参加した時には職員も地域の職員の一員として行動し、交流を深めている。	地域の運動会や祭りには、積極的に参加するようにしている。また、地域商店街での物品の購入を心がけている。グループホーム内で行なわれる行事については、地域ボランティアの参加を募って協力をしてもらっているが、今後は更に地域との繋がりの必要性を感じている。	地域社会と交流を行う中で、利用者が地域で当たり前の暮らしを続けられるような体制づくりをさらに継続させることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社内の研修を、地域の方に情報として話している。小学生との交流で核家族の多い子供達にも認知症を理解してもらう。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1度会議を開き、利用者の現状等を話し合い、時にはアドバイスを受け、支援に活かすようにしている。	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、地域会長、法人本部職員、ホームスタッフなどのメンバーで2カ月に1回の運営推進会議を開催している。その中で家族から「健康維持のため体操を取り入れて欲しい」との意見があり、検討の結果2ユニット共同で体操を行うようになり、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括委員・あんしんサポート・認定調査委員様方から、情報・アドバイスを頂いている。	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員の参加があり、相談事があればその際に行なっている。また、地域の連絡会が2ヶ月に1回あり、連携をとれる体制がある。	市町村の連携を積極的に行い、利用者の課題について一緒に解決できるような関係を、今後は期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は、各、職員研修で学んでいます。時には安全面を優先し、家族様に了解を得、夜間にベッドのサイドレールを施行したり、環境面の事もあり施錠をしています。	身体拘束に関する研修を行い、身体拘束廃止の重要性については理解している。外につながる扉や窓においては安全面を考慮し施錠しているが、外出の機会は頻回にとるようにしている。2ユニット間は、自由に行き来できるようになっている。	鍵をかけずに安全に過ぎせる工夫や、より抑圧感を感じない生活の実現に向けて、さらに検討し続けることを期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、各、職員研修で学んでいます。利用者様の尊厳に努めています。	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名利用されています。職員も権利擁護に関する制度を理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、会社・事業所の理念、運営方針、金銭面を十分に説明し納得頂けるよう、解りやすく誤った理解のないよう丁寧に説明します。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	。施設に意見箱を設置したり、日常の言動に注意し、利用者・家族様の要望を引き出せるようしています。	家族の来訪時には職員が声をかけ、グループホーム内での様子を伝えて、その際に家族の要望や希望を聞くようにしている。また、家族に対してお便りを発行しており、利用者の様子を定期的に伝えている。玄関入り口には、意見箱が設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のカンファレンスを開き、職員の意見を交換しています。常に意見・要望が言える環境にし反映させるよう努めている。	月1回、職員間ミーティングを行なっている。また、従業員の満足度調査があり、その際職務の過重が問題となり、職員の増員につながった。このことから、職員は意見を言いやすい環境にあり、管理者は職員からの相談を受けたり、意見を聞いたり出来るよう、普段からの関係作りを大切にしている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は努力した者には報われる凶式を整えている変則勤務のため大変だが希望休・有給・季節休等取りやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、社内外の研修に参加しやすい環境に努めている。研修・受験の資格のある職員には参加を促し、スキルアップにつながるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設の見学・情報交換をし、施設作りに反映させている。地域の施設の交流会に参加予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様の不安・要望を重視したアセスメントを行い、職員間情報を共有し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き、面接・契約時に現状・困っている事・希望等をお聞きます。施設の役割も説明します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の不安・要望・現況に添った介護ができるか判断します。対応出来ない時は他の施設を紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が孤独にならないよう気を配ります。人生の先輩として尊厳し、その人らしさを失わないように支援します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、ご本人・ご家族様・職員が協力し、ご本人を生活を支援して行きたいとお願いしています。日頃から、現状をお話し、行事やレクレーションに参加協力をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から何時でも面会に来て頂けるようお願いしています。生活暦・趣味を聞き、馴染みの所へ出掛けます。	グループホームに入居されても、今までの生活を大切にしてもらおう為、箆笥やベッドや利用者の好きなものはなるべく持ち込んでもらうように伝えている。家族がいつでも面会に来易いよ、特に面会時間は設けていない。友人の訪問も多くある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの様子、その人の居場所を確保等を考え入居者同志の関係がスムーズに成るよう努めます。入居者同志が支えあえる関係が目的です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても交友はあります。依頼があれば相談・支援をしたいと思えます。現在までに在宅生活に戻られた方はいません。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活で利用者さまの様子・表情に気配りし、訴えを察知します。職員で対応策を検討し、本人希望に添った支援をします。	意思表示が不十分な利用者からは、行動や表情から思いや意向を汲み取るよう努めている。関わり方や方法等については、フロア内会議の時に職員でその人にあった個別の対応について話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き、著しい環境の変化がないよう注意します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・職員間の申し送りなどで、心身の変化に注意している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何時でも必要時に、本人の現状を重視した、職員間の話し合い、家族への説明・相談した後その時のニーズに応じた計画を立て直します。	利用者や家族の思い、希望を反映した介護計画の作成に努めている。家族が面会に来られた時には、介護計画の内容の確認を行い、見直しが必要なときは適宜行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やチェック表を共通の情報とし重要な事は口頭でも申し送ります。介護計画にも反映します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現状に応じたサービスを紹介しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を深め、地域の行事への参加。近隣の小学校・保育所の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人・家族様に提携医説明し、納得、了解頂き月2回の往診をお願いしています。他科の受診が必要な時は紹介状をお願いし、早急に適切な診療を受けています。	入居時にかかりつけ医の確認をしている。基本的には、入居者と家族の同意のもと、協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。月2回提携医の往診があり、必要時には医師の指示や往診が受けられるようになっている。他科の受診が必要な時は、主治医より紹介状をもらい、看護・介護職員が同行して通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師が週1回健康管理をしています。職員の相談に対応します。提携医の連絡を密にし、病状の説明をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中のご本人に面会にしたり、家族様と医師の説明を聞き、退院後の生活がスムーズに出来るようにします。病状によっては訪看の協力を得、早期退院に努力します。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の希望を、ご家族様・提携医・施設の三者会談で話し合います。現状が変化する都度、三者で話し合います。ご家族様の意向を大事にしています。	本人や家族の意向を踏まえて医療機関と連携を図り、必要時は主治医の往診があり、安心して納得した最期が迎えられるよう重度化や終末期に向けた体制を整えている。状況に応じて本人や家族の意思を確認しながら、職員相互の連絡を密に取っている。開所以来数人を看取った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急や事故発生時のマニュアルがあり、職員は初期対応の研修を受けています。		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。その時に近所の方に声がけします。マンションの持ち主との消防訓練も実施しています。	緊急時のマニュアルは職員に周知徹底されている。以前ホーム上階のマンションで深夜に警報器の誤作動があり、緊急時の対応の重要性は共通意識として持っている。その際はマンションや近隣の住民の方々が駆けつけてくれ、周辺住民との連携の重要性を再確認した。	近隣や上階の住民と連携して合同の訓練を実行されることを期待したい。備蓄品は、東北大震災の影響で、現在不足気味である。非常時、災害時に備えて乾パンや即席麺等の食料、飲料水、防災用品等についても準備することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉の虐待の研修を受けており、記録・個人情報には注意しています。	入居者の尊厳を尊重し、プライバシーを傷つけないような対応を心がけている。排泄についても排泄チェック表をつけ、その人の排泄パターンをつかみ、声かけを出来るだけし、トイレ誘導を実行している。マナー向上委員会等を開き、対応が慣れあいにならないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分の思いを話せる雰囲気作りを努めている。その思いを極力実行するよう努力します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムにあった対応に心がけている。個々にあった催し物を探し参加する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様の綺麗に、若々しくの希望に添って訪問美容に毛・カットをお願いしている。外出時には化粧をします。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員の手作りです。一部食器は好みの物を持参してもらいます。個々の力量にあった家事をしていただきます。季節感のある献立を用意します。	献立と食材は業者に委託し、栄養バランスやカロリーに配慮している。調理や味付けは全職員が交代で工夫して調理を行い、後片付けその他の出来ることは利用者に行なってもらっている。使い慣れたお箸、湯飲み、食器は自分の物を持ち込んでもらい、職員の見守りや介助のもと、その人に合った食べ方で食事を摂ってもらっている。	様々な身体状況の利用者に対応できるような食事支援を期待したい。具体的には、嚥下困難・咀嚼困難・自歯欠損の利用者が食事を楽しむことについての取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にシルバー用献立の材料注文しています。刻み食やトロミをつけたり、摂取しやすいよう対応します。個々に好みの飲み物を聞き用意します。季節感のあるおやつを用意します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助をしています。月1度訪問歯科医に診断を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	重度の利用者が大半の為個々の排泄ペースで誘導し、トイレで排泄出来るよう心掛けています。	排泄チェック表で確認しながら、個々の排泄パターンに応じた個別の支援に取り組んでいる。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。歩行力の弱い方はつかまり立ちを出来るようにサポートしたり、できるだけトイレで自立して排泄できるよう支援している。下痢や便秘など入居者によって状態が違うため、様子をみながら声をかけ、薬剤を使ったりお腹をさすったりして問題の解消に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が日常生活に影響する事を熟知しており注意しています。個々の排泄表を基に運動・水分摂取を心掛けています。時には医師の指導で下剤を使用します。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば何時でも入浴できるよう対応しています。お風呂嫌いな方には良いタイミングを探します。	原則、決まった曜日での週2回の入浴日になっているが、利用者の体調や希望には個別に柔軟に対応している。浴槽はとても爽やかな匂いがして綺麗に整備されており、気持ちを和らげて入浴できるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は清潔保持に注意しています。本人様が休息したい時に何時でも休めるようベットメイキングをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があるときは連絡ノート・診察ノート・口頭での申し送り間違いのないよう注意しています。服薬時は必ず他職員と声を掛け合確認します。職員は服用薬の効能を把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴・趣味・可能な役割を楽しめるようにしている。趣味に合った外出・外食の機会を作ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば何時でも外出します。春・秋に遠足として家族様に協力を得て遠出します。今後個々に合わせた外出を考えています。	外出支援に関しては天候や体調に合わせて行ない、外気に触れる機会を確保している。周囲には勾配のある坂もあるが緑の多い環境なので、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会を得やすい。散歩や買い物等の個別支援だけでなく、定期的に多人数での外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かは近くのスーパーやコンビニでは自己で支払っていただきますが、お金の管理は施設でしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様が電話や手紙を出す事はありませんが、暑中見舞い・年賀状は職員が援助して出しています。家族様・知人からの便りは説明して渡し、時には一緒に読みます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔保持に注意しています。玄関周りには季節の花を植え、壁には季節に添った飾り付けをします。各居室には温度計・湿度計を設置し、空調に注意しています。	玄関周りには写真を飾り、四季折々の花を工夫して飾っている。居室内の温湿度計を職員が確認し、調整を行なっている。トイレは広くて車椅子でも動きやすく、持ちやすい位置に配置された手すりは、不使用時には邪魔にならない位置に動かすことが出来る。	2つのユニットをつなぐ通路に洗濯物を干している場面があった。この部分をユニットを越えての交流や余暇活動等で使用するなど、更なる共用空間の活用を検討することを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのコーナーにマッサージ機・ソファを設置し居場所確保出来るようにしています。離れた場所で新聞を読まれます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様にお願ひし、ご本人の馴染みの家具・洋服・日用品等を持ち込んで頂きます。好きなぬいぐるみ・写真立て時にはご主人の位牌もあります。居室も個々でアレンジして頂きます。	入居者が馴染みの家具や洋服、日用品、思い出の多い鏡台、位牌、仏壇等を持ちこんでもらい、居心地よく過ごせるように個々の部屋をそれぞれで工夫してもらっている。ベッドに慣れていない利用者は、自然な傾斜で段差を解消した畳を敷いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室前には張り紙をして解りやすくしています。椅子にお花をつけて目印にします。誕生日には全員でお祝いをし、誕生日カードに写真や言葉を添付し飾ります。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない